

# 安足地域麦類技術情報 No. 1

令和6(2024)年10月25日  
安足農業振興事務所

適期内に播種できるよう、計画的に作業を進めましょう

## 1 今後の気象

気象庁の寒候期予報(9月24日発表)によると、播種後(12月～2月)の平均気温は「低い」確率が40%、降水量は「平年並又は少ない」確率がともに40%という予報が出されています。

表1 関東甲信地方 寒候期予報(12月～2月)

関東甲信地方 寒候期予報(12月～02月)					
2024年09月24日14時00分 気象庁 発表					
冬 12月～02月	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。			
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。			
気温、降水量の各階級の確率(%)					
気温	関東甲信地方	冬 12月～02月	40	30	30
降水量	関東甲信地方	冬 12月～02月	40	40	20

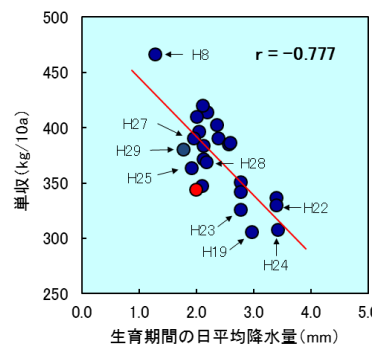
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 今後の作業について

### (1) 排水対策

近年、短期間にまとまった雨が降ることが増え、そのため麦類の収量に悪影響が出ています(右図参照)。

安定した収量を確保するために、排水対策を徹底しましょう。排水対策は、①額縁明きよの設置(地表水の早期排水)、②スタブルカルチなどによる心土破碎(浸透排水性の改善)を組み合わせると効果的です。



麦単収と降水量との関係  
(平成6年産～30年産、ただし、平成26年産は穂発芽被害のため除く)

### (2) 土づくり

収量と品質を向上させるためには、深耕や有機物の投入、土壌改良資材の施用が重要です。

#### 1) 深耕

作土の深さは20cm以上になるよう耕うんしましょう。深耕が難しい場合でも、ゆっくり耕うんして20cmを確保しましょう。

## 2) 有機物の施用

堆肥や稲わらなどの有機物を施用しましょう。特に、良質な堆肥を施用することで、土壌の地力向上、通気性や保水性の改善、また地温上昇の効果も期待できます。

有機物の種類	施用量 (kg/10a)
牛ふん堆肥	1,000

※稲わらを鋤込みした場合は石灰窒素 10～20kg/10a を施用しましょう。

## 3) 土壌改良資材の施用

麦類は一般的に酸性に弱く、土壌が酸性化すると生育が極端に悪くなります。播種前に苦土炭カルなどのアルカリ資材を使用して、pH6.5 を目標に矯正を行いましょう。特に水稻作付後の土壌は pH5.0～5.5 になっている場合があるため、必ず施用するようにしましょう。

リン酸は根の発達や分けつの発生を促進します。土壌分析を行い、不足している場合は土壌改良資材で補完しましょう。

土壌改良資材名	施用量 (kg/10a)
苦土炭カル	60～100
OM-37	80～100

## (3) 肥培管理

基肥窒素施肥量の目安を基準として、令和6年産のタンパク質含有率や生育状況、地力に応じて施肥量を加減しましょう。

表2 水稻後に作付けする場合の基肥窒素施肥量の目安 (kg/10a)

品種名	ニューサチホ ゴールデン	もち絹香	さとのそら
基肥窒素施肥量	6.5～8.0	10.0以上	10～11

【タンパク質含有率が低い場合（ビール大麦ではオレンジカード、小麦ではタンパク質含有率 9.7%以下）】  
→被覆窒素肥料を含む肥料を使用しましょう。被覆窒素肥料を含む肥料を使用している場合は、基肥窒素施肥量を 1～2 kg/10a 増やしましょう。

【タンパク質含有率が高い場合(レッドカード)や倒伏の発生が見られた場合】

→基肥窒素施肥量を1～2 kg/10a減らしましょう。

【砂質のほ場や大豆作付後のほ場で麦類を作付けする場合】

→砂質のほ場では、基肥窒素施肥量を1～2割増やしましょう。  
大豆作付後のほ場では、3～5割程度減らしましょう。

## (4) 播種

### 1) 播種時期

**県南部の播種適期：11月10日～25日**

麦類の栽培においては、播種時期が生育に大きな影響を与えるため、適期内での播種が重要です。適期播種を基本としつつ、最新の気象庁の季節予報(1か月、3か月、寒候期予報)も参考にして播種時期を決めましょう。

播種時期が生育に及ぼす影響

適期より遅れた場合の影響	適期より早い場合の影響
凍上害が発生しやすい 分けつ数が少なく、穂数が少なくなる 蛋白質含有率が高くなる 硝子粒率が増加する 赤かび病が発生しやすい 収穫時に雨に遭遇し、穂発芽の発生や品質低下を招く	縞萎縮病に感染しやすい 春先に凍霜害を受けやすい 側面裂皮粒等の被害粒が発生しやすい 過繁茂で茎数が多くなるが、無効分けつが多くなる 1穂粒数が少なくなる 整粒歩合が低く、容積重が軽くなる

### 2) 播種量

耐倒伏性を高め、粒の充実をよくするためには、標準量で播種することが重要です。過剰な播種量は、経費の無駄になるだけでなく、過繁茂や軟弱徒長の原因となり、倒伏の危険が増し、減収や品質低下につながります。

表3 品種ごとの標準播種量(kg/10a)

品種名	ニューサチホゴールド	もち絹香	さとのそら
播種量	8.5	8.5	7～8

※播種が適期より5日遅れるごとに播種量を10%程度増やしましょう。

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

TEL: 0283-23-1431

URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>